

事務事業名		高齢者市民保養施設利用助成事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり				事業区分	担当組織	担当部	こども福祉部	担当課	社会福祉課
	政策	1 健康で安心して暮らせるまちづくり					担当係	管理係	担当課長名	向田 紀之	
	施策	1 心と体の健康づくりの推進					新規事業・継続事業	継続事業			
	基本事業	1 健康づくりの推進					実施計画事業・一般事業	一般事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	3835	一般	3	1	1	高齢者市民保養施設利用助成事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H17年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市高齢者市民保養施設利用助成要綱					
						市単独事業・国県補助事業	市単独事業				
						任意的事業・義務的事業	任意的事業				
						実施方法	直営				
						事業分類	現金・現物給付事業				
						リーディングプロジェクト	該当なし				
						市長マニフェスト	該当なし				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成27年度実績(平成27年度に行った主な活動内容)							
・市民保養施設「レイクサイド佐野」を利用した市内に住所を有する65歳以上の方に、1人2,500円を年度1回助成する。 ・平成26年度までに利用した対象者については、1人3,000円を年度1回助成した。			助成申請の受付、利用者台帳の確認(口座確認)、助成金の交付決定・支給、レイクサイドとの連絡等 (助成内訳) ・補助金 5,442千円 ・件数 1,878件 ・人数 2,171人							
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)			
助成件数		件	1,371	1,527	1,878	100				
助成人数		人	1,608	1,766	2,171	120				
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市内に住所を有する65歳以上の方			対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
			市内に住所を有する65歳以上の人		人	31,625	32,510	33,458	33,310	
目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
高齢者の健康の保持及び増進を図る。			成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
			助成人数/高齢者数		%	5.0	5.4	6.5	0.4	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
健康に関する知識を深め、健康づくりに取り組んでもらう。			上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)
			健康教室等参加者数(延べ人数)		人	3,817	3,355	4,274	3,950	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	3,879	3,845	2,800					
	一般財源	千円	945	1,453	2,642	300				
	事業費計(A)	千円	4,824	5,298	5,442	300	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			補助金	4,824	補助金	5,298	補助金	5,442	補助金	300
人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1				
	のべ業務時間	時間	480	480	480	240				
	人件費計(B)	千円	1,868	1,892	1,869	935	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	6,692	7,190	7,311	1,235	0			

事務事業名	高齢者市民保養施設利用助成事業	担当部	こども福祉部	担当課	社会福祉課	担当係	管理係
-------	-----------------	-----	--------	-----	-------	-----	-----

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	この事業は、「敬老健康増進事業」として、合併前の平成16年度まで、旧佐野市において70歳以上の高齢者及び65歳以上の身体障害者の方に1人3,000円を毎年支給してきた事業に替わるもので、合併協議の中で見直しの方針が出され平成18年1月1日より開始された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	社会情勢の変化のより、市の厳しい財政状況の中、総合計画の施策目的・目標を達成するため必要な事務事業を選択し、効果的・効率的な事業の実施が求められている。なお、平成20年度から「レイクサイド佐野」は指定管理者による管理運営へと移行した。平成27年度から助成金の金額が、500円減の2,500円に減額となった。レイクサイド佐野の営業が平成28年3月31日で終了した。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民より「レイクサイド佐野」を低料金で利用できることに対して、お礼・喜びの言葉をいただいている。補助金等交付検討委員会から「額の引き下げを含む再検討をすべき」との指摘を受けてい

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市民保養施設を利用した高齢者に利用料を助成し高齢者の健康増進を図る取り組みは、総合政策の基本事業である健康づくりの推進に貢献するものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 「レイクサイド佐野」を利用した高齢者の健康増進や外出支援を行うことは、合併前の「敬老健康増進費」の振り替え事業として妥当なものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 この事業は、高齢者の健康の保持と増進を図ることを目的としており、合併時のすり合わせにより「敬老健康増進事業」からの代替事業として発足したことから妥当なものである。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 補助金の交付事務のみであるため成果向上の余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はあるが、統合・連携できない	理由・改善案 類似事務事業名 保養施設利用助成事業(国民健康保険事業) 助成対象者が異なるため。また、意図が「国保税の収納率の向上」を含んでいるため統合・連携できない。 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	事業費・人件費共に削減の余地がある	理由・改善案 レイクサイド佐野の営業が平成28年3月31日で終了し、申請件数が減少することが見込まれるため。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 利用料金を支払った保養施設利用者に対し助成をしている事業なので、受益者負担を求める余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	レイクサイド佐野が廃止されたとき。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																	
<p>廃止</p> <p>* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)</p> <p>レイクサイド佐野が廃止され、平成28年度で補助金の申請期間も終了となるため。</p>	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上維持</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上維持	○		×	低下		×	×	
				コスト															
		削減	維持	増加															
成果	向上維持	○		×															
	低下		×	×															